

## 首長殿下、ドーハ民主フォーラムに出席

シェイク・ハマド・ビン・ハリーフア・アール・サーニー首長殿下とシェイカ・モーザ・ビント・ナーセル・アル・ミスナド妃殿下は2006年4月11日火曜日、市内のシェラトンホテルで行われた第6回ドーハ民主フォーラムの開幕式に出席した。

開幕式には首長家関係者や各大臣、諮問委員会副議長、在カタール外交関係者、政府高官やゲスト、実業家などが出席。

首長殿下は開幕の挨拶で、民主・開発・自由貿易こそが互いを補完しあうものであり、どれひとつとして欠けてはならないのだと強調した。

「民主は全ての経済・社会分野での効果的な開発なしには成しえない。同様に、維持可能な開発は市民に意思決定過程への参加と経済的利益の保護を認めなければ達成することはできない」

民主、開発、自由貿易、そして新世界秩序の統合から望まれる利益を達成することは、発展途上国の人々にとってあらゆる面で利益となる開発の加速を手助けする包括的な、政治・社会・経済改革の実行を迫るものである」

「また先進国が発展途上国の抱える問題を理解し、彼らが自身の能力を高めるための支援としての世界貿易機構(WTO)の枠組みに収束するよう合意に導くことは、避けて通れないことである」

「この地域における歴史にとって、貿易は単なる仕事ではなく、統合された文化であり、

他者の認識やそこに映し出された自己信頼、相違や差異の受け入れと共存の要求でもある」

「この地域における民主化の成功は東西に及ぶ広い地理的範囲に対する戦略的インパクトを得ることになるだろう」

「民主化プロジェクトの成功は、国民の未来を破壊し、人権を奪い、急進主義や差別主義を増徴する暴政や墮落の発現を避けるために必要不可欠なものである」

最後に首長殿下は「このプロジェクトのもっとも重要な部分は、単なる意思決定のメカニズムとしてだけでなく、開発と進歩、そしてより良い未来を望む人々の本質に直接関連した生き方としての民主主義である」と締めくくった。